

## 道徳の時間で活用する ～相互理解、寛容～

下関市立向山小学校 市原 早人

### 1 本場面におけるポイント

● 資料の視覚化

登場人物や出来事、あらすじなどを紹介し、挿絵を黒板に提示することで、全員が資料の内容を理解しやすいようにする。

● 討論スタイルによる思いの表出

資料の道徳的価値に触れることができるような課題を設定し、自分の立場（A or B）を選択し、その理由を話し合うことで、自分の思いを表出しやすいようにする。

● 「振り返り」の活用

話し合いを振り返るとともに、過去の自分の経験等も踏まえて「振り返り」を書くことで、道徳的实践力を養う。



### 2 授業の実際

1 主題名 寛容な態度 「資料名 銀のしょく台」

2 ねらい 寛容な態度でジャンのすさんだ心を受け入れ、守ろうとしたミリエル司教の心に共感させることにより、過ちに対しても広い心で受け止め、相手の気持ちや立場を大切にしようとする心情を育てる。

#### 3 展開

(1) 教材文を読み、場面の様子を把握する。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

「私たちの道徳」5・6年生用のP82・83を読んで、場面の様子を把握する。

その際、二人（ジャン、ミリエル司教）の人物像について紹介し、挿絵や説明等を黒板に提示することで、全員が資料の内容を理解しやすいようにする。

(2) 課題に対する自分の立場を決め、そう考えた理由について話し合う。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

「ミリエル司教のしたことは、よいことだったのでしょうか？」という課題に対する自分の立場や理由をワークシートに記入し、黒板にネームプレートを貼り、理由を板書する。「よいことだと思う。」「よくないことだと思う。」の二つの立場に分かれて、双方の立場から理由を述べさせた後、質問や反論等をする。話し合いの方向がずれた場合は、話をもどしたり、話題転換をしたりする等、教師がコーディネーターの役割を果たす。

(3) 話し合いを振り返り、自分の考えを書く。

□ 指導上の留意点・支援・「私たちの道徳」活用のポイント等

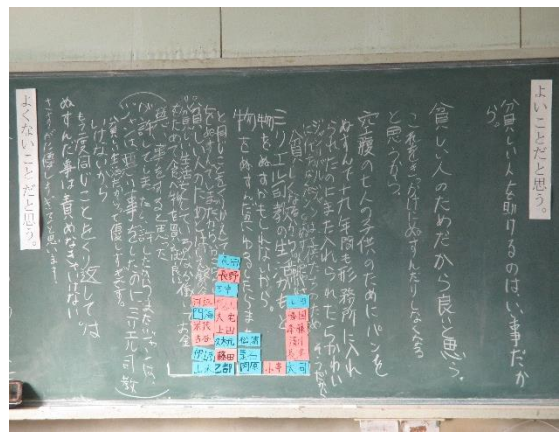
話し合いを振り返り、相手の過ちや失敗を許せずに責めてしまった経験等を踏まえて、「振り返り」を書かせることで、道徳的实践力につなげる。

### 3 実践を振り返って

「ミリエル司教のしたことは、よいことだったのか？」という問いかけに対して、児童の反応は、以下のようなものであった。

「よいことだと思う。」 ( 討論前 10名 → 討論後 15名 )

- 理由**
- ・ 貧しい人を救うためだから。人助けになるから。
  - ・ これで、ジャンが罪を犯すことがなくなるならよい。
  - ・ 銀のしょく台をもらったジャンは、改心しているようだから。
  - ・ ジャンは、子どもたちのためにパンを盗むようなやさしい人だから。
  - ・ ジャンはよい人であることを、司教は察していたと思うから。



「よくないことだと思う。」 ( 討論前 15名 → 討論後 10名 )

- 理由**
- ・ ものを盗んだのに許したら、また、盗むかもしれない。
  - ・ 悪いことをしたら罪を償って、きちんと反省すべき。
  - ・ 司教はやさしすぎる。ジャン本人のためにならない。
  - ・ あげるなら、最初から「あげる」というべき。
  - ・ 司教のしたことは罪を隠したともいえるし、ジャンの共犯者。

「よいことだと思う。」立場に立った人数 ( 8名 )

「よくないことだと思う。」立場に立った人数 ( 2名 )

討論後は、ミリエル司教の広い心と寛容な態度に共感させ、「よいことだと思う。」という立場に寄っていくことを期待したが、児童の変容は、十分とは言えなかった。その理由として、以下のことが考えられる。

- ・ 「ジャンのしたことは悪いことである。」という考えに固執し、ミリエル司教の崇高な行いに思いが及んでいない。
- ・ 「ジャンのしたことを許すことは、ジャン本人のためによくない。」との考えから、ジャンのしたことに話の中心が向いてしまった。

ただ、「よくないことだと思う。」立場の児童も話し合いを振り返って書いた「ふりかえり」は、司教の心の広さに感動し、たたえる内容となっており、ねらいは達成できたように思う。

本時では、討論というスタイルで児童の主体性を尊重し、教師はコーディネーターの役割を果たすことに努めたが、望む児童の姿を明確にし、教師がねらう道徳的価値に焦点を当てて、児童の発言をつないでいくことで、ねらいに迫っていくことの必要性を改めて感じた。

